

第2章



板橋区の現状と課題

第2章 板橋区の現状と課題

板橋区におけるユニバーサルデザインに係る現状と課題を整理します。

1 ユニバーサルデザインに係る区民の意識

(1) ユニバーサルデザインに関するアンケート調査の結果概要

平成28年4月1日から4月15日まで、無作為抽出した区内在住の20歳以上の3,000人を対象に「ユニバーサルデザインに関するアンケート調査」を実施し、859人の方から回答を得ました。

この調査結果の概要は以下のとおりです。

【図表5】アンケート結果の概要（詳細は資料14参照）

設問	結果の概要	詳細
①ユニバーサルデザインの認知度（1つだけ）	<ul style="list-style-type: none"> ○知らなかった（今回初めてきいた） 47.6% ○言葉だけは聞いたことがあった 25.5% <p>73%の回答者がユニバーサルデザインについて知らない状況にある。</p>	88頁
②ユニバーサルデザインの言葉のイメージ（3つまで）	<ul style="list-style-type: none"> ○道路や公園がだれにとっても使いやすい 57.0% ○施設やお店がだれにとっても使いやすい 50.5% ○製品がだれにとっても使いやすい 35.7% ○だれでも自由に外出できる 14.7% ○だれでも思いやりやもてなしの心を持っている 13.6% ○だれでもイベントに参加できる 7.7% <p>道路・公園・施設・店舗といったハード面の環境をイメージする回答者が多い一方、社会参加の環境や人的対応といったソフト面の環境をイメージする回答者が少ない傾向にある。</p>	90頁
③普段の生活や外出などで感じる不便さについて（個別施策）	<p>（上位3項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歩道に障害物（看板・自転車等）がある 71.5% ○自転車利用や歩きタバコなど生活マナーが悪い 71.1% ○外出時にひと休みできる場所が少ない 64.0% <p>（下位3項目）</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公園が使いにくい 25.5% ○買い物や食事などを安心してできるお店が少ない 25.2% ○施設内の移動がしづらい 18.1% <p>歩行環境やマナーについて不便と感じる回答者が多い傾向にある。</p>	98頁

設問	結果の概要	詳細
④ 普段の生活や外出などで感じる不便さについて（10年前との比較）（1つだけ）	○わからない 36.4% ○どちらかといえばよくなった 34.8% ○よくなった 17.6%	97 頁
⑤ 今後力を入れた方がよいソフト面の取り組みについて（3つまで）	○わかりやすく情報を提供する 61.9% ○安心して子育てができる環境づくりを進める 49.9% ○思いやりのある接客やサービスを提供できるようにする 48.9%	106 頁
⑥ 今後力を入れた方がよいハード面の取り組みについて（3つまで）	○道路を安全で快適に歩きやすくする 70.8% ○トイレ（施設、駅、公園など）を使いやすくする 49.1% ○公共施設や駅などを快適に利用できるようにする 47.8%	102 頁

(2) 結果から見える課題等

アンケート調査の結果から、以下のような課題や特徴が明らかになりました。

- 「ユニバーサルデザイン」の言葉の認知度は高いわけではありません。
- 言葉のイメージから、道路、公園、施設等のハード面の環境をイメージする傾向が高く、人的対応などのソフト面からのイメージは低くなっています。
- ただし、「使いやすい」「わかりやすい」という回答項目が多くなっていることから、ユニバーサルデザインのイメージは持たれていると考えられます。
- 普段の生活や外出などで感じる不便さについては、歩道にある障害物、凹凸、傾斜、段差等の歩道に関するものや生活マナーに関する回答が多くなっています。
- 10年前と比較して「よくなった」「どちらかといえばよくなった」という回答は多く、普段の生活などで感じる不便さは一定程度解消されてきたと推察されます。
- 今後のソフト面の取り組みとしては、わかりやすい情報の提供のほか、安心して子育てができる環境や思いやりのある対応、接客やサービスなどが求められています。
- 今後のハード面の取り組みとしては、道路を安全で快適に歩きやすくすることのほか、施設、駅、公園などのトイレや公共施設等の利用に関するものが求められています。

2 情報提供や、思いやりのある対応等のソフト面に関する現状と課題

(1) 普及啓発や人材育成に関する現状と課題

- アンケート結果にもありますが、ユニバーサルデザインという言葉自体の認知度は高くなく、そのイメージもさまざまです。また、連想される内容はハード面に偏っています。そのため、「だれもが、使いやすい」といったユニバーサルデザインの定義を明確にし、普及・推進していくことが必要です。
- 区では、従来から障がい者に対する理解を促進する取り組みを行っていますが、いまだに障がいの特性等が十分理解されているとは言えません。障害者差別解消法への対応を進めるうえでも、区の職員はもとより、区民・地域活動団体・事業者とも、それぞれの障がいの不自由さに対する理解を共有し、合理的配慮の方法を検討することが必要です。
- 小学校の総合的な学習の時間及び道徳の時間等において、ユニバーサルデザインについて学習したり車いす体験を行ったりするなど、障がい者を理解する教育を行っています。今後は、東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として、国際理解教育を深めるとともに、障がい者とのふれあいや障がい者スポーツの体験、ボランティア活動の実施などを通して子どもの健全な育成を図っていくことが必要です。
- 高齢者、外国人、子育て中の方などが日常で感じる困難さ、不便さ等に対する理解を深めるとともに、こうした配慮が必要な方への表示や案内の趣旨を理解し、相手の立場に立って行動できる方法の検討が必要です。

(2) 情報提供や暮らしに関する現状と課題

- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会では外国から多数の来訪者が予想されます。そのため、案内サインや情報表示等の多言語化対応や、ピクトグラムの活用が求められています。表記の統一化のルールが決まり次第、速やかに対応していくことが必要です。
- だれもが気兼ねなく外出するために、民間施設の協力も得ながら赤ちゃんの駅やだれでもトイレの設置を進めていく必要があります。併せて、これら施設の所在地について、身近な情報通信機器などから容易にアクセスできるような一層の工夫を行い、常に最新の情報を発信していくことが重要です。
- 東日本大震災や熊本地震の発生などにより、防災に関する意識が高まっています。これらの災害では、更衣室や授乳室がないために、子育て中の方が避難所を利用できなかったり、障がいのある方が他者への迷惑を気にして避難所を出ていかざるを得なかったりと、配慮が必要な方に対するさまざまな課題が散見されており、検討が必要です。
- 障害者差別解消法への対応や、障がい者雇用が求められています。また、働く女性や区内在住外国人も増加しており、事業者（企業等）は障がいの有無や、性別、国籍にかかわらず、その方たちが本来持っている力を企業内で発揮できる環境を整える必要があります。

3 施設や駅等のハード面に関する現状と課題

(1) 公共施設等に関する現状と課題

- バリアフリー総合計画の施策である「建物と住まいのバリアフリー化の推進」で掲げた保健所や健康福祉センターの改築、学校施設の改築・改修などは、57 項目中 48 項目が「達成」「概ね達成」となっており、区の公共施設の整備では、バリアフリーやユニバーサルデザイン^{※1}の成果が現れています。
- 板橋区役所本庁舎南館の改築の際には、全館のサイン計画も一新し、色彩や字体について、わかりやすく目的地へ誘導できるものを採用するなど、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた施設整備を進めてきました。そうした中、今後開設される区内の公園や体育施設などでは、子どもでも利用しやすく、簡単に理解できるような、だれにとってもやさしい設計を推進していく必要があります。
- 区が保有する公共施設の半数以上は建設から 30 年以上を経過し、改築や大規模改修の時期を迎えていることから、今後、維持・管理や更新等の施設に関する経費は大きな財政負担となることが予想されます。その中で、感性価値^{※2}の高い施設などは、単に改修するだけでなく、歴史的・文化的な価値を残しつつ、人的介助など他の方法でも不便さ等が解消できるよう検討する必要があります。

(2) 移動手段や交通施設等に関する現状と課題

- 鉄道駅では、区内のほぼすべての駅でバリアフリーの 1 ルート化が確保されています。1 ルートが確保されている鉄道駅については、必要性や国・都の動向も踏まえつつ 2 ルート目を要望していきます。
- また、駅ホームからの転落事故を防ぐための対策がなされていない駅があることから、ホームドアや内方線付き点状ブロック^{※3}の設置などを通じて転落の危険性を解消していくことも必要です。
- 相対的に公共交通サービス水準が低い地域（要改善地域）が存在しています。これらの地域においては、サービス水準を向上させる必要があります。
- 歩道の横断勾配や車道との段差などは、視覚障がいのある方や車いすを利用する方など立場の違いにより、使い勝手が異なるものがあります。すべての人にとって使い勝手の良いものにするような工夫が必要です。

※1 バリアフリーとユニバーサルデザインの違いは、第 5 章及び資料 13 を参照。

※2 だれもが本来持っている心地よいと感じる感情のこと。詳細は第 3 章に記載。

※3 点状ブロックの内側に安全側を示す 1 本線が追加されたブロックのこと。

4 推進体制に関する現状と課題

- 行政課題が複雑・高度化し、また区の職員の構成も大きく変わってきている現状から、単独の部署だけでは解決できない課題が増えてきています。そのような場合でも、ユニバーサルデザインを進めるにあたっては、施策・組織横断的に一丸となって取り組んでいくことが求められています。
- 公共施設の改築・改修を頻繁に繰り返すことは困難なため、公共施設の新築・改築時には「はじめから」ユニバーサルデザインの考えにマッチングしているかをチェックする必要があります。
- 区の特定の内容を審議する会議や検討組織間で共通の課題が予想される場合には、事前に区の職員が互いに連携して解決できる体制を整えたり、早めの調整を行ったりすることが必要です。
- ユニバーサルデザインの考え方を踏まえたまちづくりは、区、区民、地域活動団体、事業者が共通の理解のもとに進める必要があります。こうした主体の協力を得るためには、現状について把握するとともに、区が明確な目標を定め、共感を得られるようなストーリーを描く必要があります。

コラム | 赤ちゃんの駅

乳幼児を抱える保護者の子育てを支援する取り組みの一環として、保育園・児童館・民間商業施設などを「赤ちゃんの駅」として指定しています。実施施設は、フラッグやステッカーを掲示し、乳幼児を連れて外出した際の授乳やおむつ替えのために、気軽に施設を利用できるようにしています。

板橋区発祥のこの事業は、「2009年度キッズデザイン賞」「2010年度グッドデザイン・ライフスケープデザイン賞」を受賞し、現在全国的に展開されている事業です。

また、区と協定を締結している区内の大型商業施設2店舗の赤ちゃんの駅内「板橋区子育て情報コーナーすくすく」において、区の職員による子育て出張相談を行っています。

